

令和3年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 高蔵 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数)

教科に関する調査(国語, 算数)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語, 算数)の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.8	63	11.0	69
全国	9.1	65	11.2	70

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全体的に記述式の問題に課題がある。また、書ける児童と書けない児童の二極化が目立っている。書くことが苦にならない取組を、今後も継続していく必要がある。
	よくできた問題	目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える問題については、正答率が高かった。
	努力が必要な問題	目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける問題については、正答率が低かった。
算数	全体的な傾向や特徴など	全体的に記述式の問題に課題がある。問題のどこに着目し、何をどのように書けばよいのかを教え、書いて説明する学習を習慣化する必要がある。
	よくできた問題	速さと道のりを基に、時間を求める式に表す問題については、正答率が高かった。
	努力が必要な問題	帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述する問題については、正答率が低かった。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<p>○「将来の夢や目標を持っている」児童の割合は9割程度で、全国平均より高くなっている。それぞれの夢の実現のために具体的な目標設定を行い、行動に結び付けることができるように、今後もキャリア教育の充実に努めていく。</p> <p>○「家で自分で計画を立てて勉強している」児童の割合は6割程度であるが、「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)1日1時間以上勉強している」児童の割合は3割程度であった。全校で自主学習の時間の目安(10分×学年)を示したり、個に応じた自主学習の量・内容・出し方を工夫したりすることで、自主学習の習慣を定着させる必要がある。</p> <p>○「自分には、よいところがあると思う」児童の割合は5割程度であった。自己肯定感や自己有用感が高まるように、児童の成長を認め、適宜称賛するとともに、互いのよさを伝え合えるような場を設定していく必要がある。</p> <p>○「今住んでいる地域の行事に参加している」児童の割合は5割程度であった。学校は地域の方に支えられているという意識や関心をもたせる指導を今後も継続していく必要がある。</p>

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- 「学びの質を高める授業づくり5つのポイント」をおさえ、児童が「できた」「分かった」が実感できる授業を繰り返し実践する。
- 全校一斉で朝の計算タイムを設定し、計算力の向上に努める。(繰り下がりのあるひき算、わり算、あまりのあるわり算を中心に)
- 放課後の時間等を活用し、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る補充学習を行う。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 自主学習ノート(3年生以上)を活用し、「書くこと」を習慣化する内容を取り入れる。(日記、今日の学習の振り返り等)また、学年通信や学校通信を通じて、学習時間・学習内容・学習方法などについて、具体的に児童及び保護者へ啓発を行う。
- あいさつ運動やなかよしデー等、縦割りグループを活用した活動に継続的に取り組むことで、自尊感情が高まるようにする。